

令和5年度

大阪市前立腺がん検診有識者会議

令和5年8月3日(木)

本日の議題

- (1) 令和4年度有識者会議の振り返りおよび令和5年度の変更点
- (2) 大阪市前立腺がん検診実績
 - ・実績報告
 - ・「精密検査の考え方」について
- (3) 個人票の質問項目について
- (4) 今後に向けて

(1) 令和4年度有識者会議の振り返りおよび令和5年度の変更点

① 大阪市前立腺がん検診のフロー図 (資料1)

対象：50・55・60・65・70歳（年度末年齢） 男性市民
取扱医療機関（一次医療機関）： 620機関（令和5年6月末現在）
精密検査協力医療機関（二次医療機関）： 51機関（同上）

② R4年度 有識者会議後の変更

- 個人票：受診後ファクトシートの作成について（資料2、参考資料1）
- 大阪市保健事業のしおり：実施要領の変更（資料3）

【前回会議の提案】

5 結果判定（判定する年齢階層は上記2対象年齢に同じ）

追加

検診の結果判定は、医師が次の判定基準（年齢階層別 PSA 判定基準値）に基づいて行い、検査結果は必ず本人に通知し、適切な保健指導を行う。

修正

年齢階層	精密検査不要	精密検査必要
50・55・60歳	3.0 ng/mL 未満	3.0 ng/mL 以上
65歳	3.5 ng/mL 未満	3.5 ng/mL 以上
70歳	4.0 ng/mL 未満	4.0 ng/mL 以上

参考文献「前立腺がん検診ガイドライン 2018」

追加

追加

※PSA値については検査方法によらず、小数点第2位以下切り捨てにより判定する。

③ R5年度 啓発について

- 広報誌（R4年度末～R5年度初めに区広報誌等で各区啓発）
- 対象年齢にはがきで周知予定

(2) 大阪市前立腺がん検診実績

資料4 年齢階級別集計表

資料4－1 令和3年度

資料4－2 令和4年度

受診率算出の分母：対象者数について

○他のがん検診では地域住民全体（大阪府方針：令和3年度実績より）

○受診率

- ・検診対象者数は『推計人口27,000人』 ※『推計人口＝国勢調査人口－就業者数』
- ・令和3年度は上記対象の10%である2,700人を目標としていた
令和4年度・5年度は20%である5,390人を目標としている
- ・受診率計測の意義
対象者数を他のがん検診と同じに地域住民全体とした場合、
対象者数は1年齢あたり2万人前後、受診率としては1～2%。

【検討事項1】精密検査の考え方

- ・がん検診としての精密検査の位置づけ（資料5、参考資料2）
参考資料2 実際の精密検査結果通知書（写し）供覧

(3) 個人票の質問項目について

・ 5a還元酵素阻害薬服用者への情報発信について

個人票の結果の欄に、男性型脱毛症の治療薬について記載している（参考資料1）

前立腺がん検診（PSA検査）の結果について	
今回のあなたのPSA値	
ng/mL	
1. 精密検査不要	今回の検診（PSA検査）では、精密検査の必要を認めませんでした。 今後は少なくとも5年ごとに再度PSA検査を受けてください。 ただし、排尿の状況に変化があるなどの症状がある場合は、すみやかに泌尿器科専門医を受診してください。 なお、服用している薬（男性型脱毛症の治療薬など）によってはPSA値が低く検出されることがありますので、処方医にご確認ください。
2. 精密検査が必要	今回の検診（PSA検査）の結果、精密検査を受ける必要があると判定されました。 泌尿器科専門医を受診のうえ、必要な精密検査を受け、病気の有無を確かめてください。

【検討事項2】

受診者が理解して受検していただくためにも、個人票の質問で服用を確認し、検査結果の正しい理解について呼びかける。（質問項目；現在は3つ（参考資料1を参照））

「追加案」Q4. あなたは男性型脱毛症（AGA）の治療薬を現在服用していますか？
〈はい／いいえ〉

(4) 今後に向けて

会議後にご確認いただく内容

- 問診内容
- 資料 2（受診後ファクトシート予定）の変更内容について
- 本日の議事録

引き続き解決すべき課題

- 受診者数・率
- 精密検査受診率

本日の議題とはしていないが今後検討すべき課題

- 5α還元酵素阻害薬服用者の P S A 値の考え方
(受診者数が一定数確保できてから改めて検討)